

SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

ロード オブ・ザ リング —二つの塔—

配給/日本ヘラルド映画、松竹

2003 (平成15) 年1月23日鑑賞
＜試写会＞

Data

監督：ピーター・ジャクソン

出演：イライジャ・ウッド/イアン・マッケラン/リブ・タイラー/クリストファー・リー

👁️👁️ みどころ

指輪物語3部作の第2部、『ロード オブ・ザ リング —二つの塔—』を観たのは先行試写会。物語は相変わらず複雑で難しいが、第2部は莫大な金をかけた戦闘シーンが売り物。そのものすごい迫力には確かに圧倒される。しかし所詮は『ハリーポッター』と同じイギリス版ファンタジーか・・・。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<華々しい前宣伝>

昨年(2002年)2月20日に試写会で観た第1部『ロード オブ・ザ リング —旅の仲間—』に続く、第2部『ロード オブ・ザ リング —二つの塔—』の試写会が2003(平成15)年1月23日に開かれた。第1部は、第74回アカデミー賞13部門にノミネートされ、最多4部門(撮影賞、視聴効果賞、作曲賞、メイキャップ賞)を獲得したものの、私が映画評論(平成14年2月記)で予想した通り、最優秀作品賞は、『ビューティフルマインド』となり、その獲得はならなかった。

また第1部は、1050億円という驚異的な興業収入を記録し、第2部にも何と340億円もの製作費が投入されたとのこと。そして2002年12月18日に全米公開されるやオープニング5日間で1億ドルを突破するという驚異の大ヒットとなったことだ。

パンフレット記載の「誉め言葉」も、「史上最高の続編!」、「前作をはるかに超えた!完璧と言わざるを得ない」、「まさに金字塔!!」、「“クロサワ”に匹敵する戦闘シーン!」、「今年最高のファンタジー!」、「映画史上最高の叙事詩」、「驚異の映像!」等々最高級の賛辞のオンパレードだ。

<物語の基本>

この『ロード オブ・ザ リング』は、イギリスのオックスフォード大学教授、ジョン・ロナルド・ルーエル・トールキン（J. R. R. トールキン）原作の『指輪物語』を映画化したもので、第1部：旅の仲間、第2部：二つの塔、第3部：王の帰還、の3部作だ。その複雑なストーリーを要約すると、次のようなものだ。

- ① 遠い遠い昔、闇の冥王サウロンは、世界を滅ぼす魔力を秘めた「一つの指輪」を作り出した。
- ② 自由な地であった「中つ国」は、サウロンの支配下に落ちたが、勇気ある者はサウロンに立ち向かった。
- ③ そしてひとりの勇者イシルドゥアが、サウロンの指を切り落とし、指輪はイシルドゥアの手に渡った。
- ④ イシルドゥアはこの指輪を永久に葬ろうとしたが、逆に指輪はイシルドゥアを死に追いやった。
- ⑤ 今、ホビット族のフロドが持つこの指輪は、邪悪な力が込められた指輪であり、冥王サウロンが再びそれを手にすれば、全世界は闇の支配する世界になってしまう。
- ⑥ その指輪は、モルドールの火の山（滅びの山）の亀裂に捨てることでしか破壊できない。
- ⑦ そこでフロドを含む9人の旅の仲間は、サウロンたちの妨害をはねのけながら、指輪を捨ててに行く旅に旅立った。
- ⑧ 第1部では、9人の仲間のうちの1人ボロミアはオークたちに殺され、ガンダルフは悪鬼バルログと闘って地の底に落ちていった。
- ⑨ その結果、残った7人の旅の仲間は3つに分かれてしまった。
- ⑩ さあ、第2部はどうなるのだろうか？
というものだ。

<二つの塔とは>

“二つの塔”とは、そのひとつはサルマンが支配するアイゼンガルドの地にあるオルサンクの塔、もうひとつは冥王サウロンによってモルドールの地に建造された最強の暗黒の塔、バラド＝ドゥアの塔のことだ。また冥王サウロンとは世界を闇の支配下に置く“一つの指輪”の創造主。一度は滅ぼされ、イシルドゥアに指輪を奪われたが復活し、モルドールの地を本拠地に、再び指輪を手に入れようと闇の勢力を強めている。そしてサルマンは、かつては白のサルマンと呼ばれ、白の会議を主宰した魔法使い。自らの野心と闇の力の誘惑に負け、指輪を手に入れようと、サウロンと手を結んだ。

そしてまた、冥王サウロンに仕えるのはオーク。これは、かつてはエルフ族であったが、悪の手により生まれ変わった種族で、醜悪な容姿と残忍な性格を持つもの（？）だ。そし

てサルマンに仕えるのはウルク＝ハイで、これはサルマンの妖術で人間とオークを掛け合わせて作った種族。オークよりも地位が高いと自認しているヤツらだ。そしてその首領格がラーツ。オークとウルク＝ハイは、第1部で旅の仲間の一人ボロミアを殺した連中だ。

<物語の複雑性と難解性—まちづくり法の複雑性と難解性と同一!>

サルマンの支配する塔と冥王サウロンが支配する二つの塔が結束して、闇の勢力がさらに強大となり、人間の国であるローハンへの攻撃を開始した。ローハンの王は「セオドン」だが、セオドンは実はサルマンと手を結んだ相談役の「蛇の舌（グリマ）」に心を毒されていた。しかし第1部で旅の仲間を逃がせるために悪鬼バルログと闘って深い地の底へ転落していった魔法使いガンダルフは妻まじい戦いの末にこれに打ち勝ち、「灰色の魔法使い」からより強いパワーと知恵を持った「白の魔法使い」になって甦っていた。そしてこのガンダルフの力によってセオドンはやっとなりに正気に・・・。

しかしこの映画のストーリーはそれだけではない。

- ① 指輪をもったホビット族のフロドとそれに従うサムは・・・。
- ② またフロドたちと離れたアラゴルン、レゴラス、ギムリの3人は・・・。
- ③ 同じくホビット族のメリーとピピンは・・・。

残された9人の旅の仲間のうち第1部で殺されたボロミアを除く8人は、このようにそれぞれが別々の行動をとりながら、それぞれのストーリーが展開されていくのだ。

したがって、全体のストーリーは複雑で難解なことこのうえない。そのうえ、何せイギリス版ファンタジーだから、カタカナの名前なので覚えにくい。登場人物ひとりひとりのキャラだけでもパンフレットを見なければとても整理できないうえ、パンフレットで詳しく解説された地図を見ながら、それぞれの国や種族(?)、さらにはオークやウルク＝ハイなどの「化け物」の種類を整理していかないと、とてもじゃないがストーリーは理解できない。

<ファンタジーというより漫画・・・>

第1部では、エルフの国が登場し、そこには美しいお姫様 アルウェンがいた。アルウェンはアラゴルンと恋仲になっており、彼女との回想シーンは第2部でも登場する。こんな美しいファンタジーならいいけれども、第2部では、昔は「スメアゴル」と呼ばれていた「ゴラム」という人間みたいなクツネみたいなケツタイな種族が登場する。このケツタイな化け物みたいなヤツはフロドと一緒に結構よく登場するが、見ているあまり気持ちのいいものではない。

さらに森林を切り開き、武器を製造するサルマンに痛めつけられている「エント族」という種族も登場する。これは生きている木だ。だからしゃべりもするし歩きもする。この

エント族は、かつて第2次世界大戦の直前アメリカがナチスが台頭したヨーロッパでの戦争において無関心を決めつけていたのと同じように、人間の国がサルマンに攻められても「われ聞せず」の姿勢を貫こうとしていた。しかしメリーとピピンが機転をきかせて、南の地で無残に切りとられ、焼かれてしまった森林を、エント族に見せたとたん、エント族は敢然とサルマンとの戦いに立ち上がる決意を固めた。このエント族は、「地球環境を守れ」というメッセージそのものとしてよく理解できるが、大きな樹木が歩き回ったり、スローテンポでトロトロとしゃべっているのを真面目に見ているものちょっと・・・という感じ。もっとも『ハリーポッター』の好きな人は、こういうのも好きなかもしれないが、私はどうも・・・。

<映画の見どころは圧倒的な迫力の戦闘シーン>

第2部の見どころは何といっても壮大な戦闘シーンだ。これは予告編を観ただけでも、とにかくスゴイと思った。「クロサワ」に匹敵する戦闘シーン！と言えるかどうかは別として、スクリーンで観ていてもものすごく迫力があり圧倒されることは間違いない。この点は第1部とは大違いで、このものすごい戦闘場面を観るだけでも第2部は値打ちがある。戦闘するのはサルマンが結集した約1万のウルク＝ハイの軍隊VS正気をとりもどした人間の国ローハンの王セオデンだ。圧倒的な敵の兵力の前にセオデンは、ヘルム峡谷の石の要塞に退避し、この要塞にたてこもってウルク＝ハイの大軍を防ぐ方針を固めた。

これを応援する旅の仲間がアラゴルン、レゴラス、ギムリの3人。いずれ劣らぬ豪傑ばかりだ。この戦いのさなか、セオデン王の美しい娘エオウィンとアラゴルンとの恋が芽生えるのは映画のつくり方として当然か・・・。

1万人(?)ウルク＝ハイの軍隊VS石の要塞に立てこもってこれと闘うローハンの軍隊そして援軍としてこの要塞に入ったエルフの軍隊、この攻防戦は大いに見ごたえがある。莫大な金がかかったこともよくわかる。

他方もう1つの戦闘(?)は森林を切りつくされ焼きつくされたことに怒り、遂に立ち上がったエント族(樹木)がサルマンのオルサンクの塔を攻撃するものだ。これはかなりマンガチックなもので、エント族がダムを破壊することによって圧倒的に勝利してしまう。まあこれはご愛嬌だろう・・・。

<さあ第3部は・・・>

冥王サウロンと手を結び、人間の国ローハンを滅ぼそうとしたサルマンの企みは、第2部では失敗に終わった。さあ第3部はどうなるのだろうか・・・。映画のラスト部分ではその予告めいたシーンがたくさんあらわれるが、何せ物語が複雑なためなかなかわからない

い。

しかしとにかく第3部では、指輪をモルドールの火の山まで捨てにいく旅は終わり、冥王サウロンとの対決にもケリがつかはずだ。

この作品が壮大な叙事詩であることは間違いないし、登場人物と登場種族(?)そして地理を頭に入れて、複雑なストーリーを丹念にフォローしていけばそれなりに面白い物語であることはまちがいない。そのフォローは非常に大変だが、それなりに努力した方がこの映画の楽しみは増すだろう。

第2部は約3時間。第3部もきっとそれくらいの大作となるだろう。その来年の公開を期待しよう。

2003 (平成15) 年1月27日記